

「海外からの研修員による特別講座」

独立行政法人 国際協力機構

実践校：町田市立町田第三小学校

実践日時：平成28年12月14日

対象学年：6年生82人(3学級合同)

教科・単元等：総合的な学習の時間



単元の目標

「世界ともだちプロジェクト」で指定された国の一つ、コンゴ民主共和国の学習にあたり、まずは現地の人と実際に交流する。

指導の計画

	学習活動	備考・留意点
事前学習	特になし	
本時	下記参照	当日は機械不調のため、質疑応答とビデオ視聴の時間を入れ替え
事後学習	聞いた話をオリンピックノートにまとめる	

授業の構成(分)

導入 (5分)	講師 (芝浦工業大学への留学生: パトリック・キミリタ・デデテモさん)、通訳の紹介
展開 (35分)	デデテモさんがコンゴ民主共和国について、パワーポイント資料を使って位置、国旗と色の意味などから始まり、首都の様子、ボノボやオカピなどの希少動物や自然などを紹介。子どもが学費を稼いで学校に通う、貧しい家庭でも祭りでは高価な衣装を買うなどの説明もあった。文化として音楽が盛んであるという紹介から、コンゴで流行っている音楽動画を視聴。またそれに合わせて、デデテモさんが踊り、児童も一緒になって踊る。
まとめ (5分)	質疑応答

担当教員のコメント(目標の振り返りを含む)

最初、静かに話を聴いている児童の様子から、関心の高まりに不安を感じたが、質疑応答で多くの質問が児童から出て安心した。学校としてオリンピック・パラリンピック教育に取り組むのは初年度で、事前学習などをしっかりと行っているわけではないが、まずは児童・教員の意識を高めるために外部講師を積極的に呼びたいと考えている。

実施団体・講師のコメント

日本の学校教育に感動している。実際に日本の小学校に来るのは初めて。もっと子どもたちと交流したい。(講師)

普通に生活してはほとんど機会がないアフリカの人と交流してもらうことが目的。将来、東京オリンピックのときにこの出会いを思い出してほしい。(通訳)

当該校におけるこの他のオリンピック・パラリンピック教育の取組

全学年の全教育課程を精査し、各教科や総合的な学習の時間などで、「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」について学ぶ取り組みを実施。リオデジャネイロパラリンピック女子自転車の銀メダリスト・鹿沼由理恵選手、海外からの研修生ら多くの外部講師を招き、子どもたちの体験と理解を深めている。